

深化の過程



2021.12.08
No.16

☆計画訪問Ⅱ③ 新井裕先生、お疲れ様でした！

6年体育「アルティメット」

<自分の考えをもたせ、思考を広げ深める指導の工夫>

試しのゲームを振り返り、教示的フィードバックをもとに空間についてのチームの課題や本時の練習の目的、仕方を考えさせた上で、チーム練習に取り組ませる。(思考の追加・変化・強化)



<成果>

○ねらいへ迫る手立て

- ・「アルティメット」という種目がねらいに迫るために理想的な選択だった。ゲームの中でタイムをかけ、教師から声かけを行うことで、空間についての意識を高めることができていた。

○つなぎ教材

- ・「言葉リスト」が次時への学びのつながりとして効果的であるとともに、肯定的な声かけによる明るい雰囲気を生み、共感的人間関係を構築することにつながっていた。

○児童主体の学び

- ・十分な運動量が確保され、運動好きな子を育成する意識が見られた。運動が苦手な子が目立たない、止まっている子がいない、運動を楽しんでいる活動の様子だった

○ICTの効果的な活用

- ・振り返りでICTを活用し、友達のよいところを見られる環境があることで自分を変えていくことができていた。

<課題と具体的な改善策>

☆指示や練習方法のさらなる工夫

- ・はじめに理想的な空間の取り方や手本となる動きを全体に提示できるとよい。対戦チームの人数を変えて意図的に余人をつくり、空間を生かすことができるようにする、人から人→人から空間へのパスにしていくなど、ねらいに合った練習の方法をさらに工夫できるとよい。

☆知識・技能、運動の特性

- ・言葉リストに技術面の言葉も付け足すなど、押さえるべき知識や技を視覚として残し、次のめあてにつなげていく。空間を目指す意味＝ゴールをねらう、得点を得ること。運動の特性を把握できるようにしていくとよい。

☆さらに「ほめる」

- ・よい動きを賞賛し、他チームに紹介するなど、さらに教師がほめる言葉かけを意識していくことで、ねらいに迫る運動への意欲を高めていく。

☆成果と課題は、体育部や教頭先生がまとめてくださったものから抜粋させていただきました。運動量を確保しつつ、より高いレベルへと意欲を高める適切な声かけや視点の提示、参考にしたいです。



(文責：山崎)